

Ouhokai - Kaihou

編集発行：山口県立大学同窓会桜園会

〈事務局〉〒753-8502 山口市桜島3-2-1

TEL&FAX083(925)7485 振替口座01570-2-25095

メールアドレス ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp

印刷：大村印刷(株)

桜園会 会報

Vol.55

平成19年3月1日発行



公立大学法人山口県立大学設立式テープカット [左から 島田 明県議会議員、二井 関成知事、江里 健輔学長(理事長)]

初めまして

学長(理事長) 江里 健輔



平成18年4月より理事長(学長)として赴任しました。六十有余年にわたり県民、そして桜園会会員に愛され支えられてきた地域の大学ですが、少子化で今や全入時代に突入し、大学は学生を選ぶ時代から選ばれる時代となり、大学間の競争は益々激化してまいりました。そのような状況

で我が大学も生き残りをかけ、中国・四国ではいち早く公立大学法人化し、自主的・自律的に大学を運営することになりました。これまでは県当局より予算として計上されていましたが、これからは交付金として配分される仕組みになってきます。従って、大学は配分された交付金を自由に活用出来、目指す方向にシフト出来るようになりました。しかし、当然ですが、自己責任も伴ってきます。それだけに大学人はこれまで以上に教育・研究の他に本学運営に目覚めなければなりません。これは繁殖力旺盛な池の1枚の蓮の葉が1日たつと2枚になり、2日たつと4枚になる。30日で池の水面が全部覆い尽くされるとすると、29日目では50%しか覆い尽くされていないので、安心して

ると、30日目ですべて覆い尽くされ、一瞬にして形を変えてしまいます。破局は瞬間に訪れるという例です。大学はこの状態によく似ています。本学が輝くか、破局かはまさに一人ひとりの教職員の危機意識にかかっています。

私は赴任以来「意識改革」、「全教職員参画」を旗頭にしました。本年に入り、本学は全国公立大学では初めてエコ・アクション21の認証を受けるなど、いろいろな新規事業も手がけています。

本学は平成8年度男女共学の総合大学として出発するにあたり、基本理念として、「人間尊重の精神」、「生活者の視点の重視」、「地域との共生」、「国際化への対応」の4つを定め、県立女子専門学校以来の建学の精神は教職員、学生の中に脈々と引き継がれています。伝統は不滅です。

これを決めるのは大学の持つ総合力です。学内外のスタッフ、とりわけ桜園会員皆様のご支援・ご指導が必要です。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

い尽くされていないので、安心して

法人化して一年 そして未来へ

副理事長 伊嶋 正之



昨年4月に山口県立大学が法人化して、1年近くが経過しました。この間、エコアクション21という環境への取組も始まり、そして、今年4月からは新しい学部、

学科がスタートします。

① 法人化について

県立大学は、昨年4月に公立大学法人が設置、運営する大学として新しくスタートしました。

ただ、山口県立大学という名称が示すように、大学としての基本的な枠組み（6年間の中期目標）は、県が示し、大学は中期計画を作成し、実行する。そして、必要な財源の一部については、県が措置するというように、県との連携のもとで大学運営が行われていくこととなります。

一方、組織としては県から独立する訳ですから、予算、人事、組織などは自ら決定することとなり、様々な社会的ニーズに迅速かつ柔軟に対応できるなど、大きなメリットもあります。

こうした中、昨年4月に江里新理事長を迎え、新しい体制

がスタートしました。そして、新体制のもとで、中期計画の基本姿勢である「これまで以上に県民から信頼される『存在感のある地域貢献型大学』」を目指して、様々な取組を進めてきました。いま、振り返ってみると、この1年近くは、「信頼される大学」づくりに向けての基盤を整備する時期だったように思います。

また、来年度には、いわゆる「大学全入時代」に入ります。こうしたことから、来年度が真の意味での法人化元年であり、法人化のメリットも十分生かしつつ、更なる「地域貢献型大学」づくりに取り組んでいきたいと考えているところです。

② 学部、学科の再編について

これまでの学部、学科の伝統を生かしつつ、社会の新しいニーズに対応するということで、法人化前から準備されてきた学部、学科の再編も、別表の体制で、今年4月からスタートします。当分の間、これまでの学部、学

③ エコアクション21 (E-A21) の認証取得について

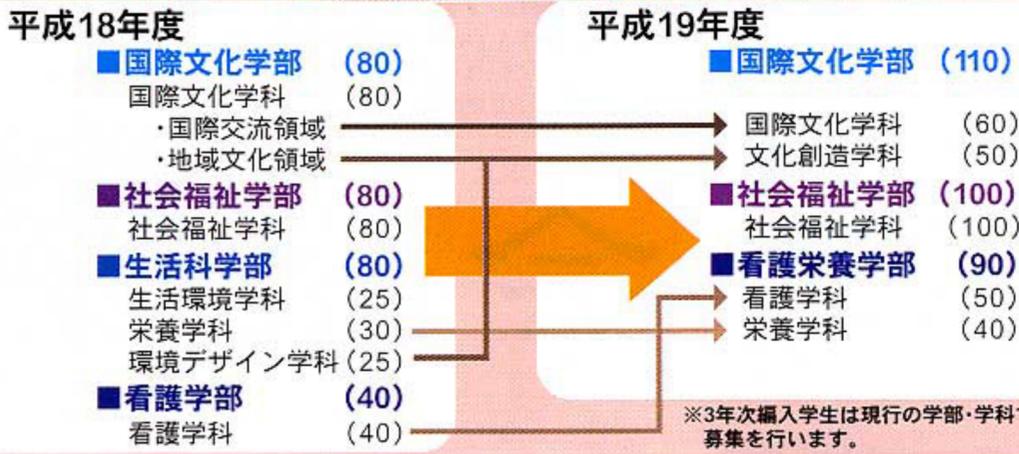
山口県立大学は、昨年9月5日、全国の国公立大学として初めてE-A21(環境省が策定した環境マネジメントシステム)の認証取得しました。ごみの分別を始めとする様々な活動や幅広い環境教育の実施など学生と教職員が一体となった地道な取組が評価されたものですが、これからも、このシステムを十分活用しながら、「環境を大切にする大学」として様々な環境への取組を進めていくこととしています。

理事長は、よく「桜園会は県立大学にとってお母さんのような存在」と言っていますが、桜園会との連携をより深めながら、「存在感のある地域貢献型大学」を目指して努力していきたいと考えておりますので、一層の御支援、御協力を御願ひ申し上げます。



平成19年度の1年次入学生から変更

()は入学定員数



人事異動

- 退職**
 山本圭介 社会福祉学部教授
 高野静香 看護学部教授
 松本純子 生活科学部教授
 中本 稔 看護学部助教授
 小川秀樹 国際文化学部助教授
 小川義則 生活科学部助教授
 谷口義則 生活科学部助手
 伊藤則子 看護学部助手
 湯原桂子 看護学部助手
 上原 亮 社会福祉学部助手
- 新任**
 江里健輔 学長(理事長)
 櫻原 朗 大学院 健康福祉学研究科教授
 小川全夫 大学院 健康福祉学研究科教授
 内田充範 社会福祉学部助教授
 西村文恵 社会福祉学部助手
 太田友子 看護学部助手
- 事務局職員転出**
 本廣正則 下関市副市長
 吉岡 進 教育委員会出向
 和田静生 周南県民局
 横田雅行 宇部県税事務所
 伊藤幸代 環境政策課
 口羽久江 環境政策センター
 上野篤美 国際旅券センター
 福本麻美 退職
 山口総合医療センター
- 事務局職員転入**
 伊嶋正之 副理事長(事務局長)
 阿野徹生 経営企画室室長
 梶間 敏 経営企画室主査
 前田安典 経営企画室主査
 梶村保則 総務グループリーダー
 野村孝美 経理グループ主査
 松浦芳裕 教務グループ主査
 足立 淳 学生支援グループ主査
 村田武彦 経営企画室主任
 津田泰宏 教務グループ主任
 大塚陽子 教務グループ主任

平成十八年度 桜圃会総会開催

第六二回桜圃会総会が、平成十八年五月二十八日(日)御来賓、同窓生合わせて二五名の出席を得て、ホテルニュータナカにおいて開催されました。

司会の宮原裕子さん(国文昭50)の開会の辞に続いて、吉村京桜圃会長より、「今年度から大学が独立行政法人化し、新しいスタートをきりました。会員相互の親睦とともに、母校のより良いパートナーとして支援していきたい」との挨拶がありました。そして新名誉会長江里健輔学長からは「桜圃会の会員の方々に大学の教職員の思いを伝えるとともに、支部会にも積極的に出席し、人間関係を作つて参りたい」とのお言葉がありました。

講演は、県立大学社会福祉学部教授高野和良先生による「生涯現役で広がる新たな福祉のまちづくり」で、現在、そして将来の私たちの生き方を考える興味深いお話でした。



先生は、人口減、高齢化の究極の地である大分や山口の過疎の町で何が起きているかを調査研究されていて、それが今後の日本社会のしくみを考えていく上での手がかりになるのではないかと述べられました。また、障がい者、高齢者がどんな地域に出て行き、アピール、発信して身の回りに「見える」ということで社会が変わり、支え、支えられあう社会が実現するのではないかと。そのための拠点として空き家の活用など地域に根ざした活動の場作りをして、どんな人でもその活動に関わることができるよう環境を作っていくことが大切なのではと話されました。最後に、今年、団塊世代の大量退職を迎えることとなり、次世代高齢者が退職後も生きがいを持ち「生

涯現役生活」を創造していくための「生涯現役社会づくり学会」の紹介をして下さいました。

リクリエーションは、主婦業の傍ら地元山口で音楽活動に携わってこられた歌とピアノのデュオ、カカオのコンサートでした。歌詞カードを見ながら一緒に口ずさみ、最後に「ふるさと」を全員で歌い、和やかなひとときを過ごしました。

(昭和51年保育卒 橋本記)

平成19年度 桜圃会総会のご案内

■日時

平成19年5月20日(日)
午前10時～午後2時

■場所

ホテルニュータナカ
山口市湯田温泉2-6-24
TEL083(923)1313

■講演 (演題)

「いきいき生きるということ、命を考えるとということ」
「ターミナルケアの視点から」
(講師)
山口県立大学看護学部教授
田中 愛子先生

■会費

5,000円
当番幹事はS36・41・46・51・56
61・H3・8・13・18年卒業のクラス幹事さんです。
※出席ご希望の方は、5月9日(水)までに同窓会事務局までお知らせください。

平成17年度桜圃会会計収支決算書 H18,421(単位:円)

科目	17年度決算額
収入	
繰越金	3,356,148
経常会費	4,753,930
本部入金	5,106,517
事業負担金	765,000
雑収入	15,192
合計	13,996,787
支出	
総会議費	822,395
支部援助費	365,270
事業費(会報作成)	947,200
(公開講座)	1,982,988
	1,532,334
入会記念品費	450,654
桜圃会賞費	304,500
旅費	101,575
通信費	1,231,020
印刷費	135,163
事務局運営費	58,650
情報管理費	2,202,530
備品費	913,350
消耗品費	26,250
雑費	188,471
予備費	182,890
合計	0
次年度繰越金	9,462,252
	4,534,535

事務局からのお願い

同窓会の運営は皆さんの会費で成り立っております。会費の納入にご協力下さい。

◎桜圃会本部年会費(千円)

◎終身会費(一万円)

※65歳以上の会員で希望される方は会費一萬円で終身会員になることができます。

◆振込用紙には会員番号(封筒の宛名シール右下)・科・卒業年・勤務先・送金明細・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)を必ずお書き下さい。

コンピューター処理を行いますので、郵便番号及び住所(〇〇番地まで)を正確にご記入下さい。

連絡・質問の窓口は山口県立大学同窓会桜圃会事務局

(職員在室日は水・金曜日 10時～17時)

住所 〒753-8502 山口市桜島 3-2-1

TEL&FAX 083(925)7485

E-mail ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp

山口県立大学のホームページからもアクセスできます。

(http://www.yamaguchi-pu.ac.jp)

※桜圃会では、個人情報保護法を遵守し、取り扱いについては慎重に対応してまいります。

第六回桜園会賞 受賞報告

第6回
桜園会賞

奨励賞を受賞して

サムルノリサークル
部長 洪美律



皆さんこんにちは。私達は山口県立大学サムルノリサークルです。この度の桜園会奨励賞の受賞を、誠に嬉しく思います。皆さんは「サムルノリ」という音楽を聴いたことがありますか？「サムルノリ」は韓国の有名な民俗芸能です。「サムル」は「四物」、「ノリ」は「遊び」という意味です。ケンガリ、プク、チン、チャンゴの4つの打楽器によつて奏でられるこの音楽を「サム

ルノリ」といいます。私たちは「サムルノリ」を演奏しながら、山口の皆さんへ韓国文化の素晴らしさを知って頂きたい」というコンセプトからサークルを結成しました。活動内容は非常に幅広く、学内行事での演奏はもちろん、学外にも積極的に飛び出し、山口県内の様々な地域を巡つて演奏活動を行っています。

山口市商店街での路上演奏、宮野小学校の国際理解教育のゲスト講師、日韓友情年記念イベントでの演奏など様々です。今回奨励賞に応募したのは、桜園会の方々を始め、学内の多くの方々に私達の活動について知って頂きたかったという事と、今後の活動発展に向けての更なる援助を必要としていたからです。今後は、豊富な楽器数を構えてのダイナミックな演奏を皆さんにお届けできるとい

事に留まらず、より多くの方々に楽器を体験して頂けるように工夫するなど、更に幅を広げて活動していきたいと思ひます。ご声援宜しくお願いします。

(国際文化学部4年)

第六回桜園会賞 奨励賞を受賞して

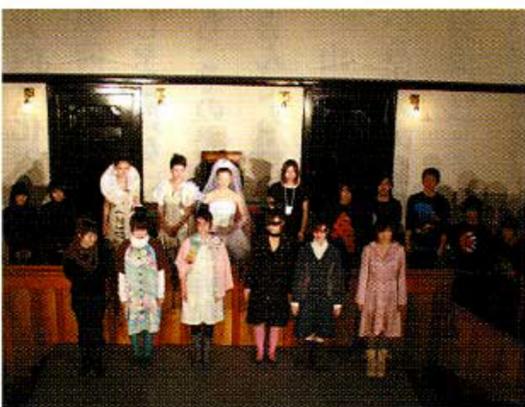
服飾研究会
学生グループリーダー

神 大樹

この度、私たち山口県立大学服飾研究会の活動に対し、高く評価して頂き奨励賞を受賞できたことを大変うれしく、また光栄に思います。

当研究会では、これまで山口の文化を発想源とした衣裳の制作や、山口の企業や市民、学生との協力の中でファッションショーや展示などを行ってきました。

また、地域文化を発信する一方、スペインのナバラ州でのファッションショーや、フィンランドからサンタクロースを招き、発光ダイオードを用いたサンタクロースの新しい衣装の発表をする



New Year Fashion Show 2007【維新】

など、国際交流も行ってききました。

そしてこれらの活動を基盤に、本年度は、「維新」をテーマにした明治初期を彷彿とさせる衣裳や、発光ダイオードを用いた新しい衣裳、商品開発を視野に入れた日常着などを制作し、かつて山口の国を動かしていた旧県議会議事堂という歴史的背景のある場所を舞台にファッションショーを行い発表しました。

今後もこの受賞を大きな励みとし、地域の文化や生活を大切にしながらグローバルな視野を持ち、山口を日本に、そして世界に発信する活動を行っていききたいと思ひます。

最後になりましたが、当研究会の活動をこれまで支援してくださった多くの方々にこの場をお借りし、心から感謝申し上げます。

(大学院国際文化学1年)

功労賞

第六回は、該当者がありませんでした。

桜園会賞応募要綱

功労賞は、

卒業後の会員の活動をたたえ

- ① 地域社会の文化の振興
- ② 生活文化の創造や普及
- ③ 文化的環境づくり
- ④ 地域社会や文化を担う人材育成

に寄与する活動をしている人に授与されます。桜園会本部或いは支部又は他の会員の推薦を受けて応募して下さい。

奨励賞は、

準会員(在学生)の活動を支え、右記①～④の活動が期待される人に授与されます。大学教員の推薦を受けて応募して下さい。尚、受賞者は選考委員会の審査を経て決定されます。

● 応募手続き・問い合わせ先
所定の様式に必要事項を記入のうえ、山口県立大学同窓会桜園会事務局に提出してください。

● 応募日程

(1) 応募期間

平成19年6月1日～8月31日

(当日消印有効)

(2) 結果発表

平成19年10月 (予定)

マリアメルセデス 大森道子様

市川 益子



ありし日の大森元会長

あなたが天国に召され、悲しみにもうちひしがれてより、早いもので四か月が過ぎてしまいました。その間国民文化祭もあり、貴女が元氣なら「雪舟と文化維新」「雪舟探訪ツアー」など二緒し、「甦る連歌」「箏曲組立の再現」などではアイデアもいただけたかも知れないと残念でした。もうすぐやってくる天国でのクリスマスや、お正月の行事はどんなだろうと想像しています。小柄な貴女が、先輩にまじって一生懸命おつとめしていらつしやるかしら？いやいやあなたらしく、自分のペースで大森流を貫いていらつしやるのではないかなど、いろいろ私なりに思い描いております。

あなたのご逝去を一番先に知って、病院から知人へお知らせしたいききさつもあつて、あなたへの追悼文をしたためさせて頂くこととなりました。日頃は病院とは縁がない暮らしをして居りました

私が、たまたま入院加療を余儀なくさせられ、同じ病棟に入院しておりましたのが縁で、毎日一回は様子を見に行っていました。前日の四時頃病室訪問した時は、枕元とは反対を向いてうつぶせに寝ていらつしやつたので、起こさない方がよいかと考へて自分の部屋に帰りましたのに、急に翌日容態が悪化し、急逝されました。信じられませんでした。看護士さんが、最後の身仕舞をされ、お好きだったツーピースのお洋服でお棺の中にいらつしやるお姿は、元氣な時の彼女そのまま、今にも口をきいて下さりそうな円満なお優しいお顔を見せて下さいました。長い透析の苦しみからも解放され、天国へ召された苦しみのない世界へ入られたのだと思つて、ただただご冥福を祈るのみでした。

彼女と私の縁は同窓生として仲良くなったのではなく、いろいろの学習会や催しなどで顔を合せているうちに自然に同窓生である事が解り、役員としてお世話する事も後になり先になり、一緒に苦勞をして、会の発展に努めて参りました。

大内文化探訪会二十周年記念の時の表彰を、入院していらつしやる貴女に代わつて壇上に立ち、その表彰状を病室に運び、喜んでもらいましたね。

山口支部長、桜圃会長を始め、いろいろの会の役員を氣さくに引受けて下さるのに甘えて、ついつい御無理を願つたのだと今にして申し訳ないことをしたなど思つています。どうぞ天国では新入りだからお好きな事を誰にも遠慮せず、お好きに生きて下さい。現世にいる私達の悪い所を夢などで教えて下さいね。私は仏教徒なので同じ天国では会えないかも知れませんが、せんけれど、せめて現世の私の夢枕に立つて欲しいと願いつつ、ご冥福を祈つて追悼の言葉に代えさせて頂きます。

(昭和22年国文学卒)

岩田弥富先生の思い出 素晴らしい 授業に感謝

山本 正世

黒板に書かれたヨットの絵。風を受けてヨットはどう進むか、そのシンプルな構造と理論を聞いた後に、まさか自分達でヨットを手造りするなど、思いもよらぬことでした。後日、クラスの皆で造り上げた二艇を榎野川づたいに運び、秋穂湾で初セイリング。理論通りにすーっと滑るように進んだ時の爽快な乗り心地。三十年前のこと乍ら、思い出す度に感動が甦つて来ます。

立体風も風が浮揚する仕組みと手斧で竹を割り、火で炙れば曲がることだけを教わつて、いざ製作へ。こうして、頭も身体もフル稼働せざるを得ない課題が毎回出され、大変でしたが、充実感が心底刻まれていきま

した。

一方、講義は、美術は勿論、音楽から舞踊に及ぶあらゆる表現を網羅するもので、今にして理解し、得心することもあり、決して水準を落とされなかつたことに改めて感謝する程です。

岩田先生の幅の広さは、かつて東工大で最先端の電子工学を修められた後に、対局に位置するような東京芸大へ首席で入り直された経歴からもたらされたものだったかもしれせん。

ご体調を崩される直前も、日本建築に関する御本を纏め上げられたと伺つております。

今頃は、富士山よりも高い雲の上から、また新しいテーマを見つけていらつしやることでしょう。

岩田弥富先生、素晴らしい授業を本当に有難うございました。

(昭和51年保育卒)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

◆教職員

旧職 中島宇一 H18.3.3
旧職(S19家事) 大森道子 H18.8.18
旧職(S59食管) 小橋佳代子 H18.7.8

◆会員

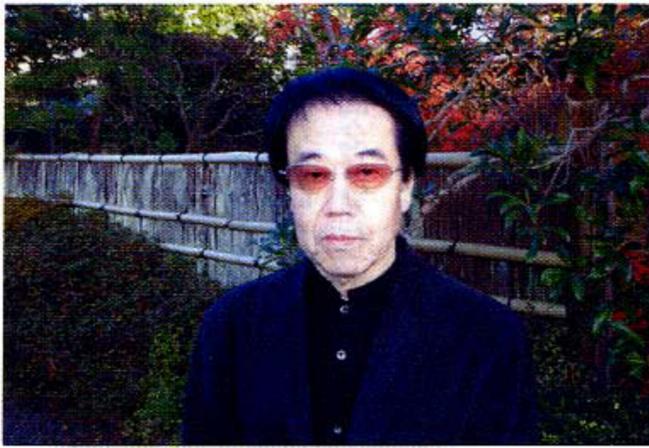
S47保育 川村幸江 H13.12.9
S35食物 松山知子 H16.11.4
S35保育 小野伸子 H16.11
H3 国文 堀切香織 H17.6
S25被服 兼田光子 H17.7.8
S26国文 村田英子 H17.9
H8生活テ 平島美保子 H17.10.22
S20裁縫 道免宮子 H17.11
H17看護 森山愛子 H17.12.17
S33保育 吉村玉枝 H18.1.13
S25被服 岸 淑子 H18.1.16
S23国語 日下恵子 H18.2.10
S31被服 中嶋静江 H18.2.24
S20裁縫 味口ノ子 H18.3
S36保育 園田礼子
S35食物 山崎由起子 H18.3.11
S34保育 藤田淑子 H18.4.4
S33保育 原井貞子 H18.5.11
S34食物 永瀬美恵子 H18.5.29
S45食物 藤本節子 H18.5
S36食物 初野美子 H18.6
S26被服 山形朝子 H18.6.14
S55被服 藤岡純子 H18.7
S29被服 原田昭子 H18.8.21
S30食物 伊藤千代子 H18.11.6
S26国語 新井登美代 H19.1.1

黄金の新生

陶芸家 大和 保男

静かに制作に入る古希、また現立場で何を学ぼうとしているのかと、世に問われた。

——終結に向けて結晶しつつある一つの形体。やがてそれが二つ三つと限りが無かった。その連続だった。私が人生に癒され留まる事は無かった。良い作品造り一筋に頑張った。勉学に疎遠し、思春期から独学で今日まで実作家として資質を試練し作品を世に送った。「学問で勝ち取ったものは秩序の中で失われる」と、そう思う偏った環境で走り続けてきた。やがて「努力」・「忍耐」そして「雌伏」



が昂じて更なる至上を目指した時、「調和と対比」、「知識と情報」など、これ等から美が発生するかもしれないと思考した。

私の不変的本能「学問をしたいという炎」は消えていかなかった。私自身がつくり上げた既成の概念(信条)を打破し次の行動に移った——

さて、まず学校が私を受け入れて下さった事から始まる。

分野の違った学識豊かな諸先生に接し衝撃的啓発を受けた。何もかもが新鮮で、何もかもが探求で、至るところに行動し、次元を越えて知識を吸収し過ぐる日学んだ記憶を蘇らせ重ねるように育んだ。

担任プロダクトデザイン井生文隆先生の繊細且つソフトなお人柄は論理だけでなく、デザイナーとして実体験に基づく方向性も示され、私の思いと馴染み相俟って「新生」するための創造的学習となった。しかし私の長年の悲願であった「造形論」を修士論文として纏める幸運に繋がり、今後、私の芸術活動の要として国際舞台を目指し飛翔したい思いである。

(昭和18年大学院国際文化学修了)

「お久しぶり」のご挨拶

生活科学部栄養学科助教

乃木 章子



山口県立大学に赴任して早や3年。歴史を感じさせる桜の大樹に、「お久しぶり」と言いつつも、過ぎた時間の重さを感じずにはいられなかった。山口女子大学の第一期生として、公立大学初の管理栄養士養成施設として設置されたこの学び舎で学生時代を過ごした。卒業後は、島根県で大病院と県立短大に勤務し、臨床現場と教育との連

携の重要性を痛感していた。栄養士法の改正に伴い、教育目標が食品から人間の栄養へと大きく転換し、国民の健康課題に対する解決能力が求められるようになった。また同時に、管理栄養士養成施設への試験科目一部免除が廃止された。そのような背景の中で実施された昨年度の管理栄養士国家試験で、本学は全国唯一の100%合格という快挙を成し遂げた。最後まで諦めず頑張り通した学生達に、私は多くのことを学んだ。今年も新たな歴史が書き加えられることであろう。またあの笑顔と感動に出会えることを願い、心

からエールを送りたい。

しかし、国家試験は通過点に過ぎない。就職後は、臨地実習や授業等で、社会に必要なとされる管理栄養士像を示して下さった先輩方の支えがあることや、大学で培った探求心を忘れることなく、対象者の方達やチームの皆さんに信頼される管理栄養士になるよう、謙虚さと誇りをもって努めて欲しい。

栄養学科は来年度から看護栄養学部として再編され、新体制での管理栄養士教育が開始される。新しい歩みに、桜園会の皆様の温かいご指導ご支援をお願いしたい。(昭和54年食管卒)

大学のみなさまのご活躍を紹介します

学生

第20回管理栄養士国家試験合格率100%
(全国では合格率26.8%)

『第61回国民体育大会』山岳(成人女子)種目縦走入賞
★入賞・国体栄誉賞
環境デザイン学科2年 原田 希有子

『第13回弦道弓道大会』(中、四国地区)
★個人優勝
栄養学科2年 河上 修

『第7回維新の里 萩城下町マラソン』10km女子29歳以下
★1位
栄養学科1年 坪河 蓉子

『2006年度五星奨一全西日本大学生中国語コンテスト』スピーチ部門
★最優秀賞
大学院国際文化研究科2年 阿川 佐知子

暗誦の部
★3位
国際文化学部2年 長弘 美弓

『山口県韓国語弁論大会』学生の部
★1位 国際文化学部3年 谷上 祐香
★2位 国際文化学部2年 貞末 典子
★奨励賞 国際文化学部3年 高橋 佑二郎

『第60回山口県美術展覧会』PRポスター原画
★最優秀賞
環境デザイン学科3年 西井 和義

教職員

★『2006年度優秀中国語教師賞』
国際文化学部教授 馬 鳳如
★語学指導などを行う外国青年招致事業(JETプログラム)20周年功労者総務大臣賞
国際文化学部助教 エイミー・ウイルソン



「四十周年行事」参加の夢抱きて

福岡支部長 毛利縫子

福岡支部創立三十周年記念行事は、「母校を訪ねるバスツアー」と、特別記念号発行である。

まずツアーは創立日の十一月八日、参加者十九名だが、返信に感謝や励ましのことばを記した人の気持ちは、母校に向いていると思つた。ところが八日を前に、ザビエル聖堂、常栄寺を県立美術館で開催の「雪舟展」に変更の希望が出てきた。バスに乗りし賛同を得て、かけ足の見学となったが、雪舟の偉大さに感動、その余韻で新キヤンパスに足を踏み入れた。

講堂を見学、鍛帳の前で記念写真を撮り乍ら、田村洋先生を福岡に招いての生涯学習セミナーを



桜園会館で学長と懇談

思い出した。「音は楽し」のテーマで演奏を聞き、金子みすずの「星とたんぼぼ」など歌唱指導を受けた。宮谷さんが「心の引き出し一杯の音を下さり、楽しんだ一日」と感想を寄せられたが、この講堂が会場だったらと思うのは、私だけではなかっただろう。

次の看護棟は、参加者の多くが国文・食物・被服・児童科時代のので、教育機器の充実に目を見張った。

しかし訪問のハイライトは学長先生との懇談で、桜の森に向かい乍ら、発展する大学への受験がかなわぬ年齢を嘆く人々に、「大学院へどうぞ」と土田さん。

我々の訪問を前に自らの手で森の手入れをされたという学長先生や、変更など迷惑とせざる物静かな対応の土田さんのファンとなつて辞した。

藍場「田屋」は大学の側で私と同期の国文科卒。藍染め初体験者ばかりだが、ユニークな柄のハンカチが誕生した。

ツアー終了後、十九年五月発行の記念号に取りかかっている



桜の森記念碑前で

が、本部や他支部に原稿の依頼などでお世話になるかもしれない。

ところで本支部発会当時三十名程度だったと聞く会員が、現在は四四二名である。しかし、諸事情があるのだろうか、その多くが三年前までの私と同じく桜園会に無関心、無活動である。役員当番学年から逃れる術がなくかわつたが、「福岡支部の生き引き」といえる名誉支部長の近藤さん、福澤さん、その他の役員、会員の皆さんに支えられ、親睦の実を育てながら、母校とのパイプ役も果たしている。

(昭和34年国文卒)

(安光)

開催日	支部名	本部からの出席
4月23日	山口	江里健輔学長/青木邦男先生/吉村京会長
5月14日	東海	
6月4日	近畿	松岡洋子先生
6月4日	小野田	
6月10日	関東	田中耕太郎先生
6月18日	萩	新谷明雲先生
6月25日	宇部	江里健輔学長/吉村京会長
6月25日	下関	
10月22日	防府	(大学見学)江里健輔学長/土田敏子理事
11月8日	福岡	(大学見学)江里健輔学長/土田敏子理事

支部名	支部長名	支部員数(名)
山口	下瀬 幸子 (食物36)	1,284
宇部	鈴川佳 壽子 (被服38)	834
小野田	守永美千恵 (食物51)	139
下関	橋本夏夜子 (食物40)	466
徳山	野深 萋子 (被服34)	343
下松	神田 禮子 (食物36)	303
萩	藤井 郁子 (国文47)	154
防府	町田 芳枝 (被服49)	454
長門	中澤 允子 (被服36)	114
柳井	平原 絹子 (食物36)	238
岩国	藤本 芳江 (生活25)	212
北九州	勝野 稔子 (食物37)	439
広島	松原 正美 (国文33)	552
近畿	南 宣子 (国文35)	628
関東	古閑 順子 (食物44)	856
福岡	毛利 縫子 (国文34)	444
四国	村松 幸子 (食物35)	243
東海	太田 和子 (被服48)	124
佐賀	久保由美子 (食物49)	112
大分	栗屋 文世 (国文44)	261

編集後記

母校は、昨年4月に独立行政法人化しました。その記念の会報に相応しく、学長(理事長)江里健輔先生と副理事長(事務局長)伊嶋正之氏に寄稿していただきました。来年度は、学部学科の再編成と、時代とともに進化を遂げる母校。変化する母校の姿をお知らせします。会報は、ともすれば一方のみになりがちですが、双方の親しみのある会報にしたいと思います。卒業生の皆様からの情報をお待ちしております。